

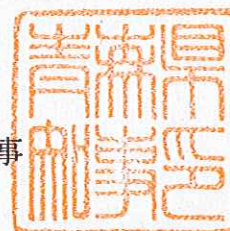


青 道 第 3 8 5 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

青 森 県 知 事



今度の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

日頃より青森県の県土整備行政に対する多大なるご支援・ご協力をいただき、
誠にありがとうございます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号でご依頼のあった件について、
別添のとおり提出いたします。

担当部署：県土整備部道路課 企画・市町村道グループ

TEL 017-734-9649

FAX 017-734-8189

今後の道路行政についての意見・提案

平成20年10月

青森県知事

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

(提案1)

これまで整備に重きが置かれてきた道路特定財源の一般財源化を契機とし、道路照明やロードヒーティングの電気代等、維持管理費に対する補助制度の創設等、使途拡大を図る。

※ 新たな施設の増加や原油の高騰により、電気代を始めとする維持管理経費は毎年確実に増加してきており、疲弊している地方にとっては非常に大きな負担となってきた。

(提案2)

- ・市町村道の除排雪経費に対する補助制度の創設
- ・資産価値を伴わない維持管理費である除排雪経費に対する補助率の拡大
- ・冬期の交通安全確保のために必要である防雪柵の建込・収納に対する補助制度の創設

※ 雪国に暮らす住民の生活・経済活動を支えるためには、冬期の安全な交通の確保が必要不可欠である。

(提案3)

主要幹線道路ネットワークの一部を成す地方有料道路に対する無利子貸付制度や本来補助対象であった事業の特性に鑑み、維持修繕等の更新費用に対する補助制度を創設する。

※ 地方に暮らす人々が安心して生活するためには、医療・福祉に対する受診機会が確保されることが必要である。

そのためには主要幹線道路ネットワークの整備はもとより、既存ネットワークの一部を成す地方有料道路について、早期無料化を図ることにより、利用者の利便性を向上させる必要がある。

(提案4)

地方の道路整備を今後とも着実に進めて行く上では、公共事業評価の評価項目について地域の実情や必要性を適切に判断することできる新たな費用便益項目の追加が不可欠であることから、その追加・見直しを要望する。

※ 災害時の迂回路解消便益・救急救命便益・冬期便益・環境改善便益並びに評価期間や社会的割引率の変更

②-1 地域の現状と抱える課題（概要）

○現状

1

広域的な交通の現状

- ・全国第2位という自動車交通への高い依存度
- ・長い都市間距離と連絡時間
- ・地域間相互の連携が不足（医療）

2

雪寒地域の現状

- ・全国・世界でも有数の降雪量、県内全てが豪雪地帯
- ・除排雪等、雪寒対策経費の増大

3

防災対策の現状

- ・津軽・下北両半島の海岸沿いや、八甲田山麓を横断する代替路のない主要幹線道路などにおいて、大規模な落石等が頻発

4

生活道路の現状

- ・『日頃の道路利用に不満』が約55%
- ・『不満』理由の上位は、日常生活道路への要求

5

維持・管理の現状

- ・道路ストックが増大
- ・近い将来の更新費用が膨大

○課題

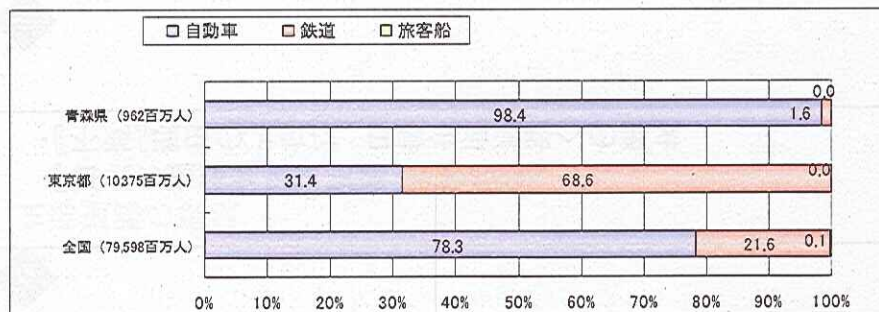
- ・広域連携、地域間交流、観光振興、救急医療、経済活動を支援する **主要幹線道路ネットワークの整備促進**
〔高規格幹線道路、地域高規格道路、直轄国道などの整備促進により、広域連携、地域間相互連携を強化する必要がある〕
- ・雪による道路幅員減少、歩行空間の閉塞、路面凍結による事故などの交通障害を解消する **冬期間における快適な道路空間の確保**
〔市町村を含め、除排雪をはじめとする雪対策を計画的・重点的に進めるため国庫補助・支援制度の拡充が必要である〕
- ・県民の日常生活や経済活動を支援する **安全で信頼性の高い 道路機能の確保**
〔緊急輸送道路をはじめとして道路の法面对策や橋梁震災対策、また、災害発生時の代替路の確保に係る道路整備を計画的に進める必要がある〕
- ・県民の安全・安心な暮らしを守り、快適な生活を支援する **安全で快適な歩行空間の確保や生活道路の整備**
〔通学路や生活道路の歩道の整備、段差の解消や、沿道と地域が一体となった道路空間の確保等の生活道路の整備を推進することが必要である〕
- ・限られた予算の中で、効果的・効率的な維持管理を行い、既存の道路施設を有効に活用する **道路アセットマネジメントの導入**
〔これまで県民の生活を支え続けてきた道路や橋梁など、多くの道路施設は老朽化が進行しており、近い将来に更新に要する費用が膨大になるという問題が明らかとなっている〕

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題 (1/5)

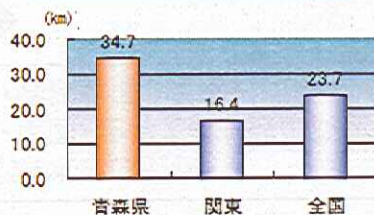
○現状

・自動車交通への高い依存度 (全国第2位:H17輸送機関分担率)



・長い都市間距離と連絡時間

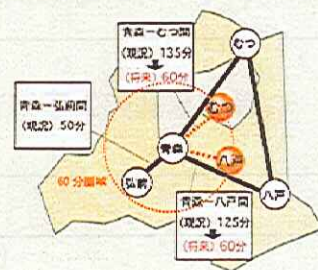
主要都市間の平均距離



資料: 全国都道府県市区町村別面積調査 (平成14年度)

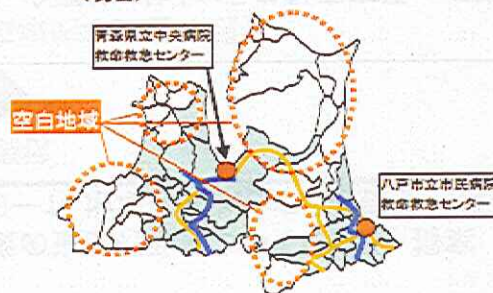
交流圏域の空み

地方生活圏中心都市間の連絡時間



・地域間相互の連携が不足(医療)

▼第3次救急医療施設への60分カバー圏域 (現在)



○課題

・広域連携、地域間交流、観光振興、救急医療、経済活動を支援する
主要幹線道路ネットワークの整備促進

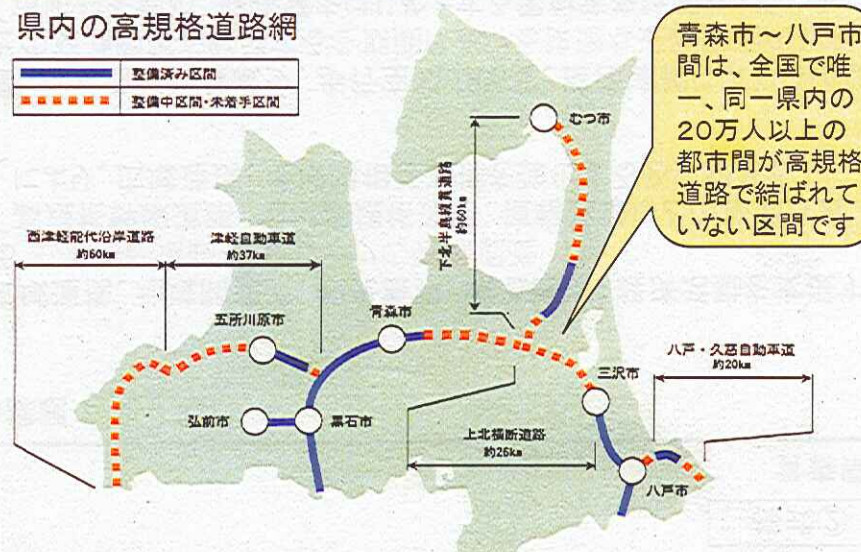
〔高規格幹線道路、地域高規格道路、直轄国道などの整備促進により、広域連携、地域間相互連携を強化する必要がある〕

◆高規格幹線道路等の整備状況(H19年度末)

		計画延長	供用延長	整備率
高規格幹線道路	全国	14,000km	9,332km	67%
	東北	2,204km	1,484km	67%
	青森県	227km	139km	61%
地域高規格道路	全国	6,950km	1,836km	26%
	青森県 (含候補)	75km (135km)	24km (18%)	32%

県内の高規格道路網

整備済み区間
整備中・区間・未着手区間

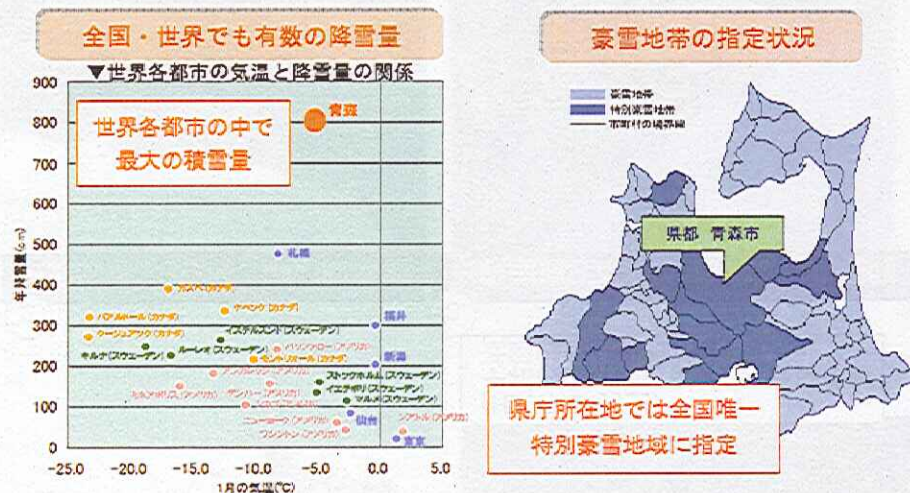


今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題 (2/5)

○現状

・本県は、全国・世界でも有数の降雪量、県内全てが豪雪地帯



[平成16、17年豪雪の概要]

	H16	H17	10年平均 (H9～H18)
青森市の最大積雪深(cm) (下段:平均比)	174 (1.5)	145 (1.3)	113
県施行の除雪費(百万円) (下段:平均比)	3,428 (1.4)	3,223 (1.3)	2,460

- ・青森市の累計降雪量(H16) 1,047cm(10年平均757cm)
- ・弘前市の累計降雪量(H17) 660cm(" 538cm)

○課題

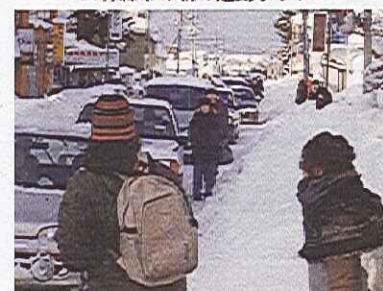
・雪による道路幅員減少、歩行空間の閉塞、路面凍結による事故などの交通障害を解消する**冬期間における快適な道路空間の確保**
 (市町村を含め、除排雪をはじめとする雪対策を計画的・重点的に進めるため国庫補助・支援制度の拡充が必要である)



▲青森市の朝の通勤ラッシュ



▲地吹雪による視程障害

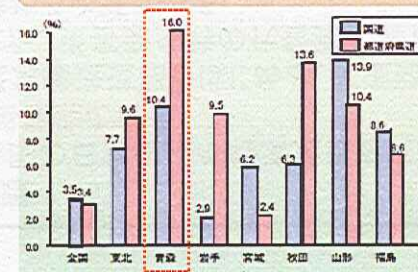


▲車道を歩く歩行者



▲すれ違い困難な生活道路

冬期間は道路が分断(冬期不能区間率)



冬期通行不能率は
全国ワースト1(14.2%)

青森県下北管内の冬期閉鎖状況



道路利用者は冬期閉鎖のため
長距離の迂回が必要に

今後の道路行政についての意見・提案

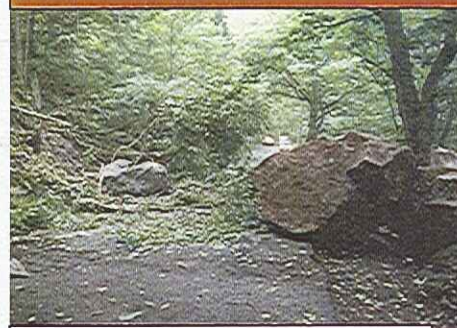
②-1 地域の現状と抱える課題 (3/5)

○現状

津軽・下北両半島の海岸沿いや、八甲田山麓を横断する代替路のない主要幹線道路などにおいて、大規模な落石等が頻発

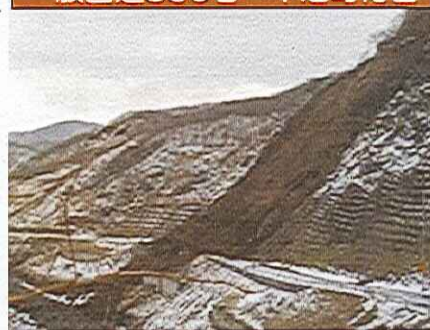


①
一般国道102号十和田市奥入瀬溪流



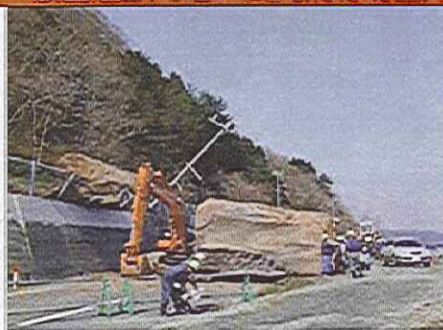
(H20.7.24発生)
十和田湖(休屋)までの所要時間が
迂回により1時間増

②
一般国道339号 中泊町青岩



(H16.12発生)
五所川原市までの所要時間が
迂回により40分増

③
一般国道279号 風間浦村易国間



(H17.4発生)
むつ市までの所要時間が
迂回により1時間10分増

④夏泊公園線[半島を周回する道路](全面通行止め、H17.4発生)

○課題

・県民の日常生活や経済活動を支援する**安全で信頼性の高い道路機能の確保**

(緊急輸送道路をはじめとして道路の法面对策や橋梁震災対策、また、災害発生時の代替路の確保に係る道路整備を計画的に進める必要がある)

代替路の計画的整備①(国道279号)



▼急勾配・急カーブ



代替路の計画的整備②(国道101号)



▼急勾配・急カーブ(冬期)



▼幅員減少(冬期)



今後の道路行政についての意見・提案

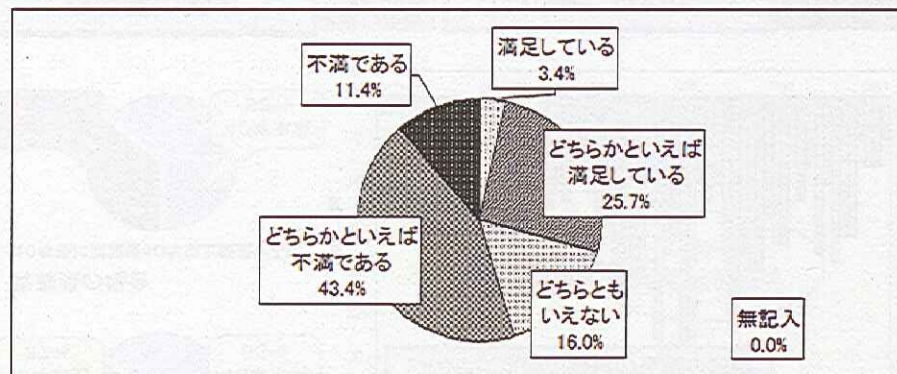
②-1 地域の現状と抱える課題 (4/5)

○現状

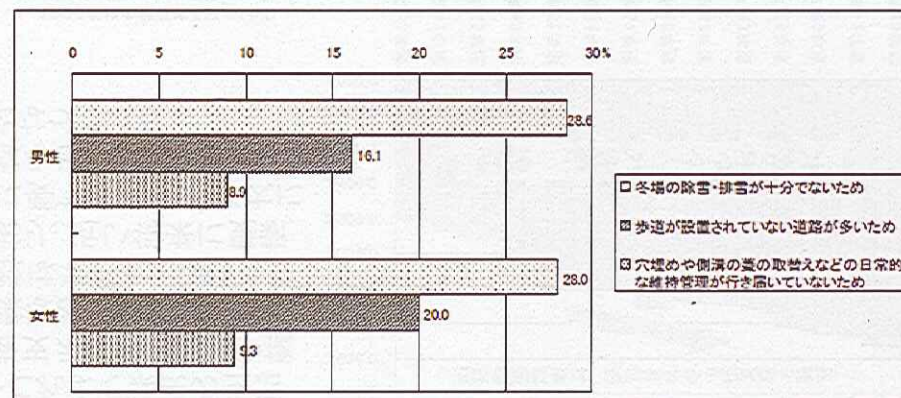
『通勤・通学や買い物など、日頃道路を利用して感じる満足度は?』

約55%が『不満』を感じている

(県政モニターアンケート H18.9)



『不満』の上位は、『除排雪』、『歩道未設置』、『日常的な維持管理』



○課題

・県民の安全・安心な暮らしを守り、快適な生活を支援する

安全で快適な歩行空間の確保や生活道路の整備

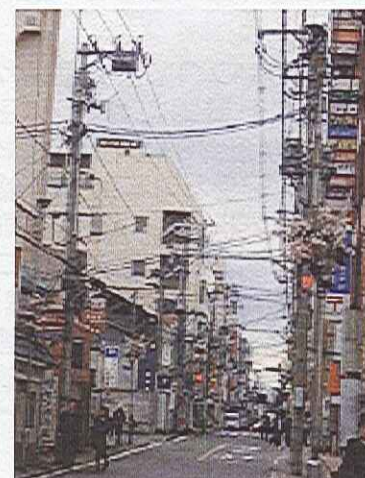
通学路や生活道路の歩道の整備、段差の解消や、沿道と地域が一体となった道路空間の確保等の生活道路の整備を推進することが必要である



▲歩道が未整備



▲歩道がなく、路肩に段差



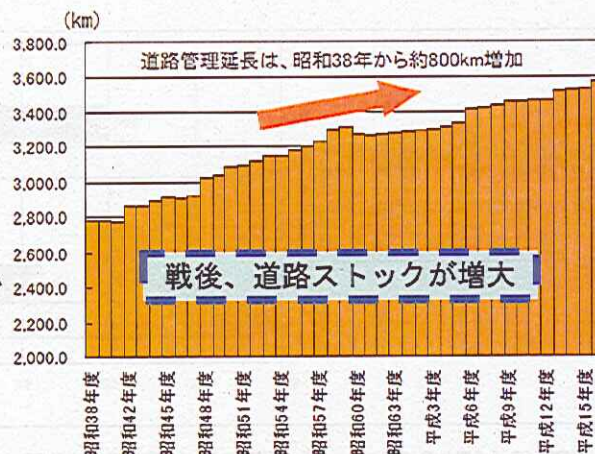
▲電線や電柱で損なわれている景観

今後の道路行政についての意見・提案

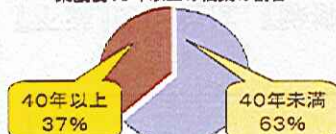
②-1 地域の現状と抱える課題 (5/5)

○現状

これまで県民の生活を支えてきた道路や橋梁など、多くの道路施設は老朽化が進行しており、近い将来に更新に要する費用が膨大になるという問題が明らかとなっている

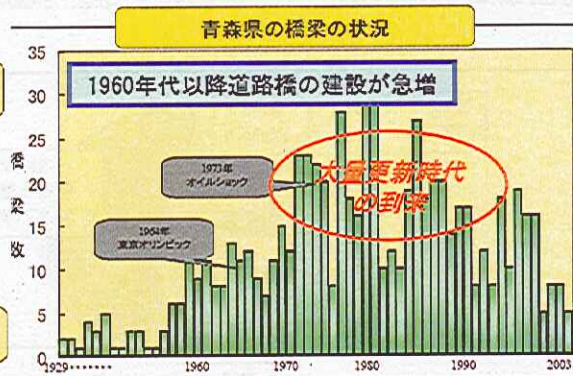
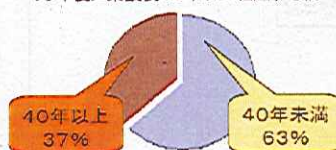


1980年代の荒廃するアメリカの架設後40年以上の橋梁の割合

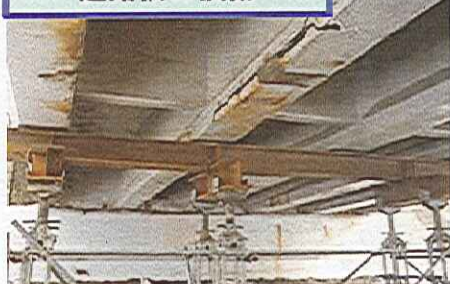


青森県の場合

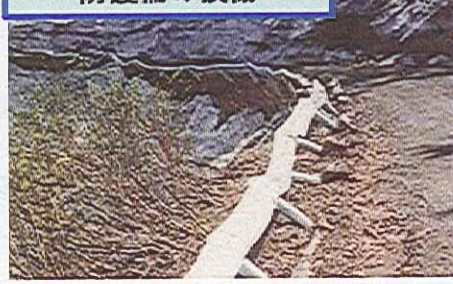
10年後に架設後40年以上経過する橋



道路橋の損傷



防護柵の損傷



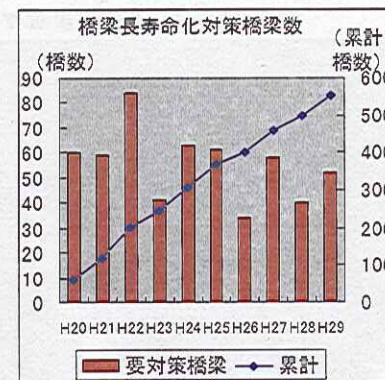
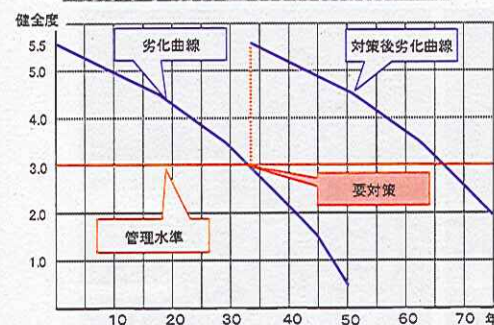
○課題

限られた予算の中で、効果的・効率的な維持管理を行い、既存の道路施設を有効に活用する**道路アセットマネジメントの導入**

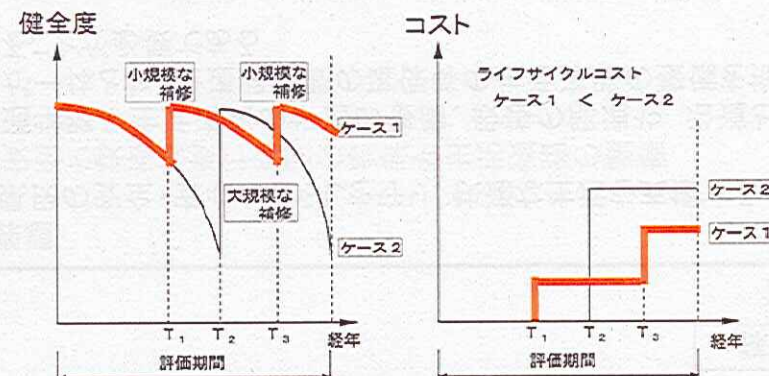
これまで県民の生活を支え続けてきた道路や橋梁など、多くの道路施設は老朽化が進行しており、近い将来に更新に要する費用が膨大になるという問題が明らかとなっている。

本県は平成18年度から橋梁アセットマネジメントを導入しているが、今後は舗装・トンネルなどの道路施設においても計画的な管理を導入していくことが必要である

□橋梁の予防保全(青森県橋梁AM)



※道路アセットマネジメントの概念



■青森のみちの将来像

基本方針(政策)

政策目標

交流促進と
連携強化を
支援する
あおりの
道づくり



- 生活・経済圏間の連携強化を支援します。
- あおり文化観光立県を支援します。
- 農水産品の都市への円滑な輸送を支援します。
- 国土保全を担う中山間地域と都市との連携を支援します。
- 交通拠点へのアクセス性強化を支援します。
- 救急医療体制を支援します。(高度医療)
- 救急医療体制を支援します。(新生児医療)

雪国あおりの
暮らしを支える
道づくり



- 冬のあおりに対応した道路構造を確保します。
- 冬期バリアフリーを推進します。
- 冬のあおりに対応した除雪の充実を図ります。
- 地吹雪に対する防雪施設の充実を図ります。

安全で安心な
暮らしを守る
あおりの道づくり



- 事故危険箇所等における交通安全対策を推進します。
- 災害時における代替性のある道路網を確保します。
- 道路防災対策の推進による安全安心を確立します。

都市機能の
高度化を支援する
あおりの道づくり



- 渋滞の解消による、良好な生活環境の創出を図ります。
- ゆとりある歩行空間・彩りある街づくりを進めます。

あおりの
自然と調和し活用
する道づくり



- 自然環境の保全等に配慮する道づくりを進めます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項

・交流促進と連携強化を支援

・効果的・効率的な維持管理の推進

・雪国の暮らしを支援

○代表事例

・主要都市間連絡時間の短縮
・規格の高い道路の利用促進

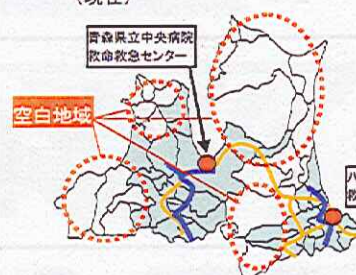
・橋梁長寿命化のための予防保全の推進

・流雪溝等による冬期バリアフリーの推進

○期待する効果や評価等

・高度医療施設への60分到達人口(下図参照)
・新生児高度医療施設への60分到達人口

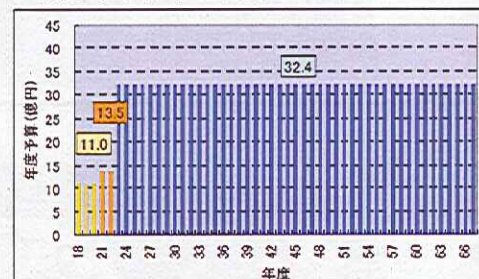
▼第3次救急医療施設への60分カバー圏域(現在)



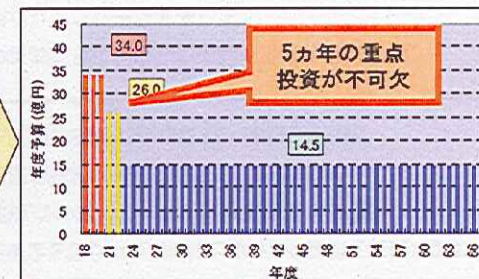
▼第3次救急医療施設への60分カバー圏域(主要幹線道路整備後)



・橋梁長寿命化計画



今後50年間で1,518億円のコストが必要



5カ年重点投資することにより
今後50年間のコストは807億円に

・冬期バリアフリー整備



融雪施設稼働状況(R7)



流雪溝整備前(R280)



流雪溝整備後(R280)

○その他